

書名	大乘仏教はなぜ日本人を魅了したのか			著者名	島田裕巳／著		
出版社	育鵬社	ISBN	978-4-594-10215-9	本体価格	¥1,600	発売	2026/3/1
内容	自分が無宗教だと思っけていても、私たちは仏教的世界観の中で生きている！飛鳥時代に日本に伝えられた大乘仏教が、なぜこれほどまでに日本人の心と文化に浸透したのか。本書はインドでの仏教の成り立ち、中国にわたった後の大きな変化、日本での神道との融合といった歴史をたどりながら、あわせて国家鎮護としての大仏建立、鎌倉時代における隆盛、江戸時代の寺請制度による庶民生活への浸透など、これまであまり光があてられていなかった側面も取り上げ、日本人特有の「宗教観」の謎に迫る。						

書名	古代天皇制と政治・儀礼			著者名	大津透先生退職記念論文集刊行委員会／編		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-04691-6	本体価格	¥13,000	発売	2026/3/1
内容	天皇制や日唐律令制の展開、行財政や儀礼の変遷を分析し、古代国家の支配構造と転換を明らかにする論集の第2冊。政治動向や官僚制、多様化する政務儀礼や神祇祭祀の実態を、出土文字資料・法制史料・古記録・典籍などから考察。「政治と政務」「儀礼と祭祀」「史料の探究」の3部構成からなる論考20編を収め、古代史研究の最前線を示す。						

書名	高市外交の正念場 反日勢力との闘い、日本再生の分岐点			著者名	山上信吾／著		
出版社	徳間書店	ISBN	978-4-19-866179-3	本体価格	¥1,800	発売	2026/3/17
内容	国民の大きな信任を得た高市早苗総理は、中国や国内の媚中勢力といかに立ち向かうのか。不安定化する国際情勢、情報戦、歴史戦の実態からオールドメディア、外国人問題、スパイ対策など、日本が抱える内憂外患と高市政権の課題とは――。						

書名	超エモ訳 うたひめたちの100の詠			著者名	富井 健二／著		
出版社	三笠書房	ISBN	978-4-8379-8963-9	本体価格	¥810	発売	2026/3/17
内容	新解釈で読む、女たちの和歌。飛鳥・奈良時代から、明治・大正、そして近現代まで。時代を超えて詠まれてきた女性歌人たちの和歌100首を、大胆なく「超エモ訳」で紹介。男女格差、叶わぬ恋、戦争、家族との別れ…苦しい時代でも、女たちは和歌を詠んだ。感情に寄り添う訳と背景解説を収録。エモい言葉に浸りながら、自然と語彙力が身につく、文学の知識も深まる一冊！						

書名	仏塔伝来 東アジアにひろがる古代寺院			著者名	向井佑介／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-30633-1	本体価格	¥2,000	発売	2026/3/19
内容	仏塔はなぜ天に聳(そび)えるのか。釈迦の遺骨、仏舎利を安置するためインドで発祥した土饅頭形のストウーパは、中国に伝来すると楼阁式となり、高層化していく。朝鮮半島を経て伝えられた木造仏塔は、いかなる思想のもと日本で受け入れられたのか。出土遺物と史料から、東アジアの歴史的空間の中で移り変わる仏塔の姿と、変わらぬ仏塔への信仰を描く。						

書名	今こそ、あきらめ			著者名	大愚元勝／著		
出版社	朝日新聞出版	ISBN	978-4-02-332472-5	本体価格	¥1,700	発売	2026/3/19
内容	仏教では、「あきらめる」には「明らかにする」と「諦める」の2つの意味がある。いつまでもグズグズ、くよくよ、イライラと、自分ではどうにもならないことにこだわっていたら、もったいない！YouTubeでの相談が5年待ち、海外からも説法依頼が絶えない人気の僧侶が教える、自分のための「いい選択」ができるようになる一冊。						

書名	なんで古墳を造ったの？神の時間と人の時間をめぐる旅			著者名	河野一隆 ミヤタジロウ／著		
出版社	新泉社	ISBN	978-4-7877-2510-3	本体価格	¥2,300	発売	2026/3/23
内容	歴史にそれほど興味がないまま歴史研究部に入部することになった颯太、理央、伊世の三人の古墳をめぐる旅がはじまります。なぜ古墳は造られたのか？そしてなぜ突然、造られなくなってしまったのか？この答えを求めて三人は、最初の前方後円墳と言われる箸墓古墳、応神陵古墳、今城塚古墳、そして最後の巨大前方後円墳・五条野丸山古墳、そして九州の装飾古墳、宗像大社と沖ノ島祭祀遺跡……へと旅を続けます。果たして、三人は答えを見つけることができるのでしょうか。						

書名	廃仏毀釈はなぜ起きたのか			著者名	栗林 文夫／著		
出版社	山川出版社	ISBN	978-4-634-59169-1	本体価格	¥2,000	発売	2026/3/25
内容	なぜ少数派が多数派となったのか？「寺院全廃」という、もっとも徹底された鹿児島県における出発点は、ごく一部の藩士たちの建議にすぎなかった。150年前の日本がたどった道と、SNSでの情報発信には意外な接点があった。「いま」を映しだす鑑として、「日本宗教史上の大事件」の本質を検証する。						